

社会科 4年生 単元名『水道クライシス ～どうする？未来の水～ 』	
日時	5月30日(木)
授業者	森 清成
本時のねらい	家族(市民)と公共の2つの立場から、水道料金とそれに関連する人的環境や地理的環境、また災害復興に関する状況を知ることを通して、上下水道の課題を見つけ、水道料金を高くするべきかどうか考え、根拠をもとに自分の考えを表現することができる。
単元・題材計画	第1次 世界と日本の水について知る……………4時間 第2次 水道料金から上下水道のしくみについて考える……………6時間(本時3/6時間目) 第3次 WOTA 株式会社の浄水システムから上下水道の未来を考える……………6時間
授業の実際 (本時の流れ)	事前に子どもたちは、水道に関して家族からインタビューを行ってきた。それを全体で共有すると、家庭では水道料金を気にしながら、水道を使っていることや水道が私たちの生活にとって欠かせないものであることなどがわかった。そこで、教師は、各市町の水道料金についての資料を提示し、それぞれの市町によって、水道料金には差があるということを子どもたちは初めて知った。 「なぜ同じ水道水なのに、水道料金が違うのか」と子どもたちは追究していった。予想として、①水源のきれいさや②それぞれの市町の税金(税収)の高い・低いや③西日本豪雨などの災害によるものという3つの予想が出てきた。その予想に対して、〈資料①:地形図〉〈資料②:各市の人口〉の資料から読み取ったり、〈資料③:浄水場や浄化センターの職員さんの困まっていること〉から考えたりし、課題を追究した。子どもたちは、家族の立場や職員の立場になりながら、水道料金の設定について考えた。
事後協議の概要	研究部からの提案授業として、今回の社会科実践を行った。協議では、今年度の学校園の研究のキーワードである『受容と共感』を柱とし、「受容と共感を促す手立てについて」「受容と共感を促す学級集団作り」に関して協議を進めた。温かな学級風土の中で、子どもたちのつぶやきや気づきを大切にしながら共感的に学び合うための教師の働きかけ、そして様々な“人”の立場に立ちながら社会の仕組みについて考えることのできる教材の可能性等について、授業者と参観者で意見を交流した。

